

令和 6 年度

自己評価の報告書（ふくよか彩橋認定こども園）

評 価 項 目	取 り 組 み 状 況
教育方針・目標	今年度も「地域の子は地域で育てる」ことを主旨とし幼稚園と保育園の機能を併せ持つ幼保連携型認定こども園として一体的な教育保育を行う 本園は平安座島の島嶼地域の入口にあり、今年度は入園児の減少のため、島嶼地域の地域企業や事業所においてうるま市内外からの労働者への募集案内を周知する 【理念・基本方針】 ・明るく健康な子・素直で思いやりのある子・あいさつのできる子 ・乳幼児の最善の利益を考慮し、子どもの人権や主体性を尊重し、健やかな成長と保護者家庭との緊密な連携のもと子育て支援や地域とともに地域福祉向上に努める ・自然豊かな環境・文化に関わり、様々な体験を行うことや地域の人々とふれあうことで、地域の良さを感じる ・季節のあそび・行事などの活動を通して特色ある保育をすることで、興味や関心を高め、意欲・自主・協調などの社会性を養う ・保護者に信頼される園づくり ・時代とともに保育や教育の需要が常に変化していることに対応できる園であること
教育内容の保護者への周知	・オリエンテーションを設け園の運営規定の重要事項とクラスの運営等の説明を行う ・毎月の園だよりを発行し、行事等を知らせている ・ミニだより、クラスだよりを発行し各クラスのねらい、カリキュラム等を知らせている ・行事等について玄関先の掲示板を活用し知らせる。 ・園行事においては、運動会、おゆうぎ会、和太鼓マラソン大会の保育参観を行い教育内容の周知を図る

教育環境の構成	・今年度はふくよか園舎において教育保育活動を実施 ・彩橋園舎では月 2 回講師を招いての和太鼓、リズム遊びを取り入れている（3・4・5 歳児） ・年長児を中心とした異年齢児交流「ごっこあそび」に取り組む ・園外活動を通して、自然豊かな環境にある 4 島の地域の特性を活かした自然体験に取り組んでいる ・彩橋園舎において、絵本の貸し出しを行っている ・市の緑化事業に参加し園庭の美化活動に努めている ・農園での栽培活動、小動物の飼育
保育教諭同士の協力連携	・毎週水曜日はふくよか園舎での職務会、必要に応じて、リーダー会を取り入れ職員間のハウレンソウ（報告・連絡・相談）を行っている ・支援を要する子どもや長期欠席の子どもたちについて情報を共通理解し、職員全体で支援に努めている。 ・様々な行事を通して係を中心に準備、進行、後片づけなどで職員が協力し助け合って同僚性を高め合っていくようにしている
研修・研究の充実	・キャリアアップ研修を中心に、職員を派遣し、保育の質を高めている ・園内外の研修に取り組み情報共有を図っている
健康・安全・衛生管理の配慮	・感染症予防対策として、感染症の流行があれば、適宜判断し、保護者への文書配布、ICT アプリ発信にて周知する ・保健だよりの発行 ・毎月 1～2 回の避難訓練（火災・災害・不審者）を行い年 1 回は総合訓練を実施し、消防職員や駐在所の巡査の指導を受けている。また、うるま市主催の地震・津波災害においては、小中学校・地域ともに連携し合同防災訓練に参加している。また 5 歳児は小学校と連携し交通安全教室に参加している ・散歩時や両園舎を行き来する場合は横断歩道を渡ることを知らせる ・心身の調和のとれた発達の基礎を培うために、散歩、園外保育、年齢に応じた運動あそびなどを年間計画として位置づけそれに基づいて取り組みを行っている ・安全管理担当を配置し、両園舎において（月 2 回）安全点検を行い、職員の安全管理意識を育て、環境の安全管理の徹底を行う ・うるま市主催の地震・津波災害においては、小中学校・地域ともに連携し防災訓練に参加している ・年 2 回の歯科検診や内科検診を行ったり虫歯予防週間を設けたりすることで、自身の体や健康について興味関心を持たせる

食育推進	・「おいしく・楽しく・感謝して食べる」を目標に食べる意欲、生活習慣の指導を心がけ子どもたちの体力向上に取り組んでいる ・農園やプランター栽培など、身近な野菜作りからの収穫を喜びクッキング・ランチバイキング等で、食事を楽しみにする時間を大切にしている ・食物アレルギー児の給食については、誤飲防止として食器やトレイの色や形で違いが分かるよう考慮する。また、配膳された食事は成分チェックを調理室、事務室、各担任での3段階に分けて確認を行う
特別支援教育	・特別支援児及び配慮を要する子の巡回相談を行い一人ひとりに合った支援・指導に努める ・ケース会議、モニタリング等、その状況に応じて各関係機関との連携を図り情報共有を行う ・保護者支援に努める。その都度面談を行い、就学時に向けて支援体制を行っている
情報の発信と受信	・おたより帳・ミニだより・クラスだより・園だより等を活用し、個々の子どもの様子は、保護者と直接話や電話をしたりして、情報交換を行っている（園だよりや献立表等はICTアプリ掲載） ・行事ごとにアンケートを実施し、保護者の声を受け入れ、改善できるように取り組んでいる。玄関先等においてアンケート用紙と意見箱を設置 ・緊急事態等やその他必要に応じて、保護者家庭への文書配布・モバイルメール発信を行っている
地域との関わり	・園の行事等（夕涼み会・運動会・発表会・マラソン大会）においては地域の方も参加していただけるように地域の掲示板を活用、また、自治会のアナウンスで周知している ・地域においての行事等（サングワチャー・こいのぼり掲揚式・長寿の集い・ガーじバル・イリチャンパーケー・ハーリー大会・区民運動会・生年祝い）に参加し自治会や地域の方との交流を図っている ・一号認定児においての募集案内を各6地域（浜比嘉・桃原・宮城・池味・上原・伊計）へ、ポスター配布、掲示の依頼を行っている ・宮城こども広場（児童施設の見学や活動・ジャガイモ植え、収穫）との交流 ・地域企業からの図書寄贈 ・郵便局との交流（ハロウィン）

小学校との連携	・円滑な接続に向け、こ・小連携連絡会を年３回行っている ・小学校との交流学习を行っている。（主に４・５歳児） ・小学校の体育館・プール、運動場の借用使用 ・毎月の園・学校だよりを通して相互の行事等、活動内容の情報提供を行い、交通安全教室に参加、マラソン大会への応援参加などを行う ・小学校、こども園の両職員間で、施設見学、授業参観、保育参観等を通して情報交換、情報共有を持ち連携を深めていった 今後も連携の強化に努める
子育て支援事業	・園庭開放 ・絵本貸出（彩橋園舎） ・育児相談 ・SDG'S 事業：子ども服などの提供 ・園行事などでの相互交流と情報提供 ・急を要する際の一時預かり、保護者のニーズに応じた一時預かり ・子育て家庭の問題やニーズに応じた関係機関との連携や協働

令和6年度 全職員の自己評価総評及び課題

○よかった視点

- ・今年度はふくよか福祉会が創立40周年事業を終え、地域の方々との親睦や交流の場をより一層、深めることができたことや、地域に支えられている「こども園である」ことを実感することができた。
- ・自然豊かな環境の中で、さまざまな学び、行事等の活動を通して、保育教育が実践できるよう、これからも「地域の子は地域で育てる」をモットーに地域に根ざしたこども園になるよう努める。

○改善点

- ・こども園に移行し、5年が経つ中で、子どもの減少、移住者の増加、都市部への転居などの背景があり、地域との子育て支援活動、保育教諭の確保が難しいことが挙げられる。
- ・島しょ地域にとって、子育て支援の在り方を各自治体や各関係機関（学校、学童、子育て支援事業等）との連携が必要となる。
- ・小学校との連携は職員同士の交流の場が持てるようにする。

課 題	改善策
○ 少子化の急速な進行に伴い園児数定員が大きく下回る現状にある。 ○ 職員間・連携への情報共有及び共通理解	○ 島嶼地域への園児募集の配布・掲示（浜比嘉島 桃原島、宮城島、伊計島、平安座島）や地域企業に広域保育の募集案内を依頼する。 ○ 若手保育教諭の育成 ○ 職員の資質の向上強化 ○ 職員の ITC ルクミー等の活用における“こどもまんなか”社会を目指す ○ 職務会などの充実 ○ 3、4、5 歳児の保育教育の充実した実践を行う。 ○ 保護者への ITC ルクミー伝達発信を迅速に行う。

以上のとおり報告します。

令和7年（2025年）3月14日

ふくよか彩橋認定こども園

園長 大庭 洋子